いきいき市民 No.3

～毎日をいきいきと輝いてすごされている市民の方を紹介します～

青年海外協力隊員として、海外でボランティア活動を実施

酒井宏美 さん

■隊員になったきっかけ

「小学生のころ、青年海外協力隊のOBの方が授業をしてくれたことがあり、いつか海外に行ってみたいと思うようになりました。」と話す酒井さん。子どものころから海外に興味があり、晴れて隊員となって派遣が決まった際も、「不安は全く無くて、行きたいという気持ちの方が強かった」そうです。

▲ スクレ市の街並み

■ボリビアでの活動

派遣先は南米ボリビアのスクレ市。平成24年の1月から2年間滞在しました。「ボリビアのことはあまり知らなかったのですが、日本や日本人、日本文化を好きな人が多く、とても歓迎してもらえたんです。」

始めこそ言葉の違いで苦労もありましたが、日本の大学院で学んだ知識を活かし、現地の大学で環境学に関する講義や、高倉式コンポスト※の研究プロジェクトを立ち上げるなど、精力的に活動しました。「学生さんはとても熱心に話を聞いてくれて、すごくやりがいを感じました。」

※高倉式コンポスト…微生物を利用して生ごみを分解し、堆肥に変える手法の1つ。

■海外でのボランティア

「ボランティアは、一方的なものじゃないと思います。」酒井さんにとって海外ボランティアとは、「現地の人と一緒に問題解決の方法を考えること」であり、「日本の文化や社会を知ってもらう」など、双方向の交流を深めることが大切だと話してくれました。

隊員を目指している人へのメッセージを聞くと、「とにかく行ってみてください。日本を外から見ることで自分の視野を広げられるなど、貴重な経験になります。」とのこと。「また機会があればボリビアに行きたい。この経験を活かして、日本とボリビアの親善に貢献できればと思っています。」と頼もしく話してくれました。

▲ 現地の学生と

❖市ホームページでも市民の皆さんの活躍を紹介しています。
トップページ「ようこそ瀬戸市へ」から「いきいき市民！」をご覧ください。

街かどスナップ

せとちゃん・藤四郎くんの一日消防官

3/7（金）

「春の火災予防運動」の催しとして、せと・まるっとミュージアムのイメージキャラクターのせとちゃんと、陶祖800年祭のイメージキャラクターの藤四郎くんが、アスク新瀬戸保育園を訪問し、防火をPRしました。

一日消防官に任命されたせとちゃんと藤四郎くんが、園児に火災の起きやすい原因を話し、消防職員と一緒に火災に気を付けるよう呼びかけると、園児からは「はーい!」と、元気な声が上がっていました。

防火PRの後、せとちゃんと藤四郎くんは園児に囲まれ、握手や記念撮影などで楽しく遊びました。